
6号 北海道がんセンターたより

平成16年9月発行

独立行政法人国立病院機構 北海道がんセンター

〒003-0804 札幌市白石区菊水4条2丁目3-54 TEL 011-811-9111

☐ ホームページ <http://www.sap-cc.org>

編集発行人: 荻田 征美



北海道がんセンターの理念

私たちは、国民の健康で幸福な生活のため、最新の知識と医療技術をもとに、良質で信頼ある医療の提供に努め、特に「がん克服」に寄与することを目指します。このため、

- 常に、医療の質と技術の向上を目指します。
- 研究、教育研修を推進し、医療・医学の発展に寄与します。
- 患者さんの権利を尊重し、誠実な医療を実践します。
- 自主自律、創意工夫の精神で病院運営に当たります。

泌尿器科紹介



泌尿器科は尿路（腎臓、尿管、膀胱、尿道）、性器（前立腺、精巣）の病気を扱う科です。尿路性器には細菌等の感染による膀胱炎等の感染症も多いのですが、当科では主として尿路性器腫瘍（大部分は癌）の治療を行なっています。そして泌尿器科で扱う腫瘍の種類は大変多く、頭側より副腎腫瘍、腎癌、腎盂尿管癌、膀胱癌、尿道癌、前立腺癌、精巣癌、陰茎癌となります。この中でも現在増加の一途をたどる前立腺癌の治療をご紹介します。

前立腺癌は、米国男性においては発生頻度が第一位の癌として有名であり、PSA（前立腺特異抗原）採血の普及、空前の高齢化と欧米並みの食生活を反映してか本邦でも急速に増加しつつあります。ちなみに当科でも10年前では新たに診断された前立腺癌は年10例程度でしたが、昨年度は1年で60例と加速度的な増加を示しています。前立腺癌の治療として、PSAの採血で発見される前立腺癌の大部分は幸いなことに早期癌であり、根治的な治療が可能となっています。この根治的治療の代表格は下腹部を切開して前立腺を全て切除する前立腺全摘出術であり、天皇陛下もお受けになられた治療法として有名になりました。当科の手術件数も年々増加し、10年前では年2例程度であったものが、昨年度は1年で36例と急増しており、全国でも有数の件数となっています。また手術手技も年々改良され、短時間で安全に

施行可能であることは言うまでもなく、身体的な状況とご希望によっては高齢者（当科の最高齢は80歳）でも可能となっております。そして治療成績ですが、当科で前立腺全摘出術を受けられた方は既に100例を越えています。前立腺癌でなくなられた方は無しというきわめて良好な成績となっております。

さらに治療法としてみう一つ、これまでは放射線治療は体外より照射を行なう方法（外照射）だけでしたが、新しい治療法として、前立腺自体に放射線を出す小さなカプセルを埋め込む小線源治療（内照射）が当院でも可能となり、放射線科と共同で7月より施行しています。この治療が受けられるのは、道内では当院だけであり、全国でも10施設程度です。

最後に、前立腺癌はこの施設でもできるPSAの採血にて発見が可能です。PSA値は2ng/ml未満が正常ですが、4-10ng/mlで30%に、2-4ng/mlでも15%には癌が認められます。50歳以上の男性にはぜひ一度PSA採血をお勧め致します。

当科ではこのように前立腺癌に対する全ての治療法が可能で、他の癌に対しては腹腔鏡手術、抗癌剤による化学療法等も用いて、泌尿器科で扱う全ての癌の治療に対応が可能です。そして治療法は、全ての治療法を説明し、患者様と充分お話をした上で、患者様の意志を最も尊重して決定しておりますので安心して受診して下さい。

Contents もくじ *****

泌尿器科の紹介	泌尿器科医長 永森 聡	1
北海道がん講演会を行いました	統括診療部長 内藤 春彦	2
医療連携室開設1周年！記念講演会開かれる	医療連携室	3
健康一口メモ		3
院内探検「売店」の巻	広報委員会	4

『北海道がん講演会』を行いました



統括診療部長 内藤 春彦

7月3日（土）に『北海道がん講演会』を札幌市内で行いました。今年で22回目、参加者は年々増え、今回は320名を越え、そのうち47%をリピーターが占め、本講演会はすっかり市民の間に定着した感があります。

テーマは「がん治療の最前線」で放射線診療部 西尾部長、血液内科 黒澤医長、呼吸器科 磯部医長が講演しました。

放射線科からは化学放射線治療で化学療法と放射線治療を同時併用することにより、頭頸部がん、食道がん、子宮がんなどの治療成績が向上していること、また、より細かくピンポイント照射を行うことが可能になり、周囲の正常組織を損傷せずがん病巣だけに限局した効率的な放射線治療ができるようになったことが説明されました。

血液科からは造血幹細胞移植のテーマで、骨髄移植、末梢血造血幹細胞移植、臍帯血移植の三種類の方法について説明があり、治療効果の高いがんの化学療法のひとつとして現在は年間2000件を超える移植が行われ、年々増加している状況が報告されました。

呼吸器科からは分子標的療法という新しい抗癌剤開発の報告がありました。従来の細胞毒としての抗癌剤と根本的に違う視点で開発されたものであることが説明され、肺がんや乳がん、血液の腫瘍などで従来の薬剤に耐性の場合でも効果が高いことが話されました。

講演終了後、参加者と当院の医師とのやりとりがあり、進行癌患者をかかえる家族から何か新しい治療法はないかとの質問が数件ありました。質問内容を聞いているとやはり正確な情報が患者さん・家族に伝わっていないのではと思われ、このような市民向けの医療講座はさらに頻回におこなわれるべきであると痛感させられました。



医療連携室開設1周年!

記念講演会開かれる

医療連携室

医療連携室が昨年8月に開設されてから1年を迎えるにあたり記念講演会が当院大講堂で8月27日(金)午後6時30分より当院職員44名、市内19病院より40名出席のもと行われました。

始めに副院長より挨拶があり、その後、近隣病院の4人の院長先生より医療連携の取組状況についてお話がありました。

白石区の東札幌病院(がんの終末患者が多い)の坂牧院長は、「急性期、慢性期、在宅の医療連携の実際」の中で病院と在宅の医療連携では、医療体制の整備、介護力、継続的な看護力等の条件が必要となるため、当院は往診専従医師を1名置いているとのことでした。

同じ白石区の札幌北楡病院の米川院長の「医療連携における留意点」では、「病院」はベッドが求められているのでいつでも入院できる体制を整えておくべき。そのためには職員が患者さんの正確な情報を共有することが重要であると強調されました。

西区の坂本医院(在宅医療に熱心)の坂本院長は「在宅患者のための地域連携室」と題して、病院として患者さんの退院後の療養方針を決定しておく必要がある。又、在宅医療を支えるにはとにかく行動することが必要であることが強調されました。

最後に、札幌市内では医療連携室の草分け的存在(平成8年5月開設)の札幌社会保険総合病院の秦院長からは「地域医療連携の現状と課題」と題してお話があり、地域内では、開放ベッド、医師の学術集会等の交流が盛んである。紹介患者の経過を知らせてほしい、時間短縮をしてほしいとの要望も地域から出ている。現在、地域医療支援病院としての立ち上げをおこなっている最中である。との話がされました。

最後に、当院は1年経過したばかりでまだまだ連携室経由が少ないため、各病院の医療連携室担当者に「待ち時間がない」ことを強調し医療連携室の存在をPRし、講演会を終了しました。終了後は各病院の担当者同士、顔合わせをしながら情報を交換しあう様子があちらこちらで見られました。



健康一〇メモ **グイッと一杯!でも・・・** — 痛風とビール —

痛風は生活習慣病

痛風は、足などの関節が赤く腫れ上がり猛烈に痛む病気で、放置すると腎臓などの内臓も侵します。体内に尿酸が蓄積することが原因で起こり、血液1dlあたりの尿酸濃度が7mgを越えると「高尿酸血症」と言われる痛風の予備軍です。

体質的に尿酸値が高い人もいますが、肥満、脱水、食べ過ぎ飲み過ぎなどの生活習慣により高くなります。

尿酸値の高い人が気をつけること

痛風を起こしたら、あるいは尿酸値が高いと言われたら、まずは生活習慣全般の見直しを行いましょう。

- 特に、
- 1) 肥満を改善する、
 - 2) 飲酒を制限する、
 - 3) 水分を多くとる、
 - 4) 軽い運動を行う、
 - 5) ストレスを上手に発散する、

この5つの励行をお勧めします。

「ビールをやめる」では解決しない

ビールには尿酸の元になるプリン体が他のお酒より多く含まれているので尿酸値が上がりやすく、よく「痛風にはビールはダメ」と言われます。そこでプリン体99%カットの発泡酒なども開発されました。しかし、アルコール自体にも尿酸値を上昇させる作用があるため、ビール以外のお酒を飲んでも尿酸値は上昇します。

プリン体が少ない焼酎ならいくら飲んでも大丈夫というわけではありません。

(平成16年8月 日医ニュース 健康プラザより)



売店

の巻

広報委員会

5月号に続き今月の院内探検は皆さん最もおなじみの売店を取り上げます。

病院に行く前は何かと気が重いものですが、いやな検査も終わった後に「ホッ」として、つい売店に立ち寄る方も多いのではないのでしょうか。現在、朝8時より夕方6時まで毎日営業、4人のスタッフで対応しています。

★4人のスタッフを紹介いたします。



大沢主任さん

皆さまいつも売店をご利用いただきましてありがとうございます。いつも、皆様方と心通じ合える皆様方の立場に立った対応を日々心がけ、信頼して頂ける売店を目指しますのでよろしくお願いいたします。なお、私どもに対して感じたこと等、是非ご意見をお寄せ下さい。



藤本さん

(藤本さん) 大沢主任を支え、心機一転皆様方のために明るく元気よく頑張りますので、よろしくお願いいたします。



中川さん

(中川さん) 明るさと元気がとりえです。サービス本位に努めますので、よろしくお願いいたします。



山下さん

(山下さん) 一番若い私ですが、皆様方とスタッフの方に迷惑をかけないように頑張りますのでよろしくお願いいたします。



最後にポイントカードについて聞きました

ポイントカード：100円のお買い上げに対して2点つきます。100点になると100円のサービス券が発行されます。切手、テレホンカード、新聞、書籍はポイント除外商品です。カードを忘れますとポイントが加算できません。必ず持ってきてください。

★大沢主任さんに売店のことを聞きました。



コンビニなのですか？

パンの山崎ショップと提携し病院コンビニ風として4月よりオープンしています。



4月より店内が明るくきれいになったようですが？

商品が見やすいように明るくしました。また、食品、飲料水を置く陳列台を広く、取りやすいものにしています。また、エアコンを取り付け、買い物をしやすい環境としました。特に今年の夏は売店が涼しかったのではないのでしょうか。



病院内の売店ということで特にどんなことに気をつけていますか？

病院内では車椅子の方、体の不自由の方も買い物に来られるため移動する際にはお手伝いを心がけています。



売店で扱っている品数はどのくらいあるのですか？どんなものが置いてあるのか教えてください。

正確ではないかもしれませんが、2000種類位あると思います。日用品、食料品等の他職員の方の看護衣等病院ならではの品物もあります。



ほしい品物がないときは取り寄せることができるの？

ご希望の品物を取り寄せることもできますのでお気軽にお申し出下さい。

本日は大変お忙しいところありがとうございました。